

当院は令和3年10月で開院して10年を迎えます。これまでの我々の取り組みを振り返りたいと思います。

産科

昨今、産婦人科医療においては、医師不足のため、また一方で医師の偏在などが問題になり、その結果として分娩施設が減り、患者さんにとって分娩施設を選択する機会も減ることにつながっています。

開院にあたって、次のような目標を立てました。

「一人一人の患者さんときちんと向き合うこと」 スタッフもその考えに基き、出産時だけでなく産後の授乳や育児指導にも力をいれてかかわってきました。実際に出産いただいた方からはその姿勢を評価いただくことも多く、私たちの仕事のやりがいにつながっています。現在在籍しているスタッフは、助産師12名（うちアドバンス助産師3名）、看護師3名、事務員5名、看護助手3名、非常勤医師6名です。その大部分は、業務量の増加に伴い加わったメンバーで、**共通のポリシーを持ってやったきた仲間**です。

また出産にあたってバースプランを書いていただいておりますが、その中で多い項目をあげると、1)なるべくリラックスして生みたい。できるだけ声かけをしてほしい、2)陣痛促進剤や会陰切開などの医

療介入はなるべく避けたいが、安全を重視して必要なら受け入れる、
3) なるべく母乳で育てたい、というものです。いずれの要望にこた
えるための取り組みとして、日々スタッフ間で連携をとりあって各
自の状況に応じた対応をすすめています。自然分娩を望むものの、赤
ちゃんの安全性を優先したいという思いはすべての妊婦さんに共通
する当然の願いだと思います。私が大切に考えていることは、**可能な
限り帝王切開になることを避けつつ母児の安全を確保できるお産が
できるか**ということです。なぜなら帝王切開は母体に手術や麻酔と
いう負担をかけることになるからです。そのために一人一人の状況
をしっかりと把握して、ベストな選択ができるように集中して出産
に立ち会うことを心がけています。

婦人科

当院は、駅前立地と夕方の診察により患者さまへの利便性を向上さ
せて、子宮がん検診や一般婦人科診察を行ってまいりました。クリニ
ックで行っている診療内容としては、1) 疾患の早期発見と治療方針
の決定 2) 婦人科関連の困りごとや相談 3) 不妊治療 4) 低用量
ピルの処方やホルモン補充療法 4) 予防接種 などがあげられます。

手術が必要な婦人科疾患の早期発見に努め、総合病院への紹介を行っています。

不妊治療については、排卵誘発剤の使用と人工授精までを行っています。日本での不妊治療による妊娠の約半数は、体外受精などの高度先進医療ではなく、その前段階の一般不妊治療によるものです。その役割を少しでも担えるように引き続き努力して参ります。

昨今、産科診療の割合が高くなっており、午前中の診察予約がとりにくくなり、婦人科診療で通院の方にご負担をかけていますが、夕方診察（土曜日は午後4時～6時）を積極的にご利用いただくことで少しでもお役にたてればと思っております。

これからもよろしく申し上げます。

院長 梅影 秀史